

## 一般会計補正予算を可決

# にんにく肉まつりの



多くの人でにぎわった十勝清水にんにく肉まつり (10/5)

今回の提案となった理由について、町長からは、「道の補助金の交付決定を待っていた。残りを町と農協で折半することで開催の見通しが立った。次年度以降は道の補助金がつくかどうかかわからないので、開催するなら気

運が高まった今であると判断した」との答弁がありました。また、「開催後は反省点を踏まえ、継続的なイベントとなるよう引き続き関係機関と協議を重ね、発展させていく」との考えが示されました。

9月  
定例会

# 開催に質疑集中

令和元年第5回清水町議会定例会が9月10日から26日までの17日間の会期で開催されました。初日は、行政報告2件、健全化判断比率・資金不足比率の報告のほか、新設条例3件の付託(※)、条例の一部改正2件、条例の廃止、一般会計ほか2特別会計の補正予算、損害賠償の額の決定及び和解の審議を行いました。2日目は、一般質問が行われ、6人が町政について質問しました。3日目と4日目は、平成30年度の決算について審議を行いました。最終日は、初日に委員会へ付託した条例の審査結果の委員会報告3件、条例の一部改正4件、人事案件、意見書2件の審議を行い閉会しました。

※「付託(ふたく)」とは、更に詳しく検討を加えるため、所管の委員会に審査を託すこと。

## 「にんにくの生産開始から10年が経過」「十勝清水にんにく」の産地化を宣言

一般会計補正予算(第4号)は定例会初日の9月10日に審議を行い、採決の結果、賛成10・反対2の賛成多数で可決しました。(審議結果は7ページに掲載)

農林業費に計上された「にんにく肉まつり実行委員会補助金(200万円)」の提案理由について町からは、「8月1日に関係団体(町・JA十勝清水町・蔬菜振興会に

産物として確立したい、他の産地に先駆けて『十勝清水にんにくの産地化』を宣言し不動の地位を確立させたい、にんにくの生産量と生産面積の充実を図りたいとの強い思いがあり、まずは、地域住民や道内外の一般消費者への周知、普及、認知度の向上を図ることを考え、『十勝清水にんにく肉まつり』の開催を決定した」と説明がありました。

議員からは、「イベントに反対ではないが、なぜこの時期の提案なのか」「肉・井まつりが終わってばかりで大変なのは」「このような事業は当初予算で計上すべき」「企画内容や開催の経緯が口頭説明だけではわかりづらい」「詳細な説明を求

めたい」との声が上がり、議会は町に対し、開催要綱や予算等の資料要求を行いました。提出された資料の説明を受け、実行委員会の予算が、町補助金200万円、JA負担金200万円、道補助金(地域づくり総合交付金)220万円、出店者負担金1万5000円、総額621万5000円であることがわかりました。

## 「にんにく」にも注目!

## 補正予算

【茨城県一生涯の地】  
埼玉県深谷市訪問  
普通旅費に68万円

### 質疑

深谷市の企画にどのような体制で参加し、交流によってどのような成果があるかと期待しているのか。

### 答弁

明治31年、本町開拓の始まりとなる十勝開墾合資会社を創立した渋沢栄一翁生誕の地である埼玉県深谷市への訪問は、11月8日から11日までの3泊4日で、本町からは町長、議長、商工会会長、農協組合長、観光協会会長、地域の方の計8名を予定している。今回の補正予算は、町長と議長以外の6名分の旅費。  
新1万円札の肖像画に選ばれたことで市は、関係団体の集いとして、11

清水町観光協会  
補助金に60万円

### 質疑

提案説明では深谷市産業祭への出店経費ということであるが、ほとんどが旅費ではないかと思う。誰が行って、どのようなことをしてくるのか。



渋沢栄一らが出資した十勝開墾合資会社によって開拓がはじまった熊牛地区(熊牛百年拓魂之碑)

### 答弁

深谷市産業祭へは、出店者2名、出店ブース支援者2名(観光協会事務局)の合わせて4名を派遣する予定であり、11月8日から11日までの間、業務にあたる。補助金60万円の内訳は、旅費に約45万円、そのほか、必要な物品等のレンタル料やパネルの作成経費など。